

ハスモンヨトウの侵入に引き続き注意しましょう（県中南部）！

9月上～中旬に行ったハスモンヨトウの見取り調査によると、発生ほ場率はいちごでは平年よりやや少なく、大豆では平年並でした（表）。しかし、フェロモントラップへのハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数は9月第2半旬～第3半旬、県央の宇都宮市、県南の小山市で平年よりも多く、発生時期も早くなっています（図）。

向こう1カ月の降水量は少ない見込みで、ハスモンヨトウの増殖や成虫の飛来に好適な条件となっています。今後、ハスモンヨトウが野菜類や花卉類等、様々な作物へ飛来し、加害することが予想されますので、引き続き発生に注意して下さい。

表 いちごおよび大豆ほ場でのハスモンヨトウの発生ほ場率（％）

調査品目	発生ほ場率（％）		調査日・調査ほ場数
	H21	平年値	
いちご	5.3	13.3	9月7～9日・57ほ場
大豆	12.1	15.0	9月14日・33ほ場

* 各25株で見取り調査を実施。

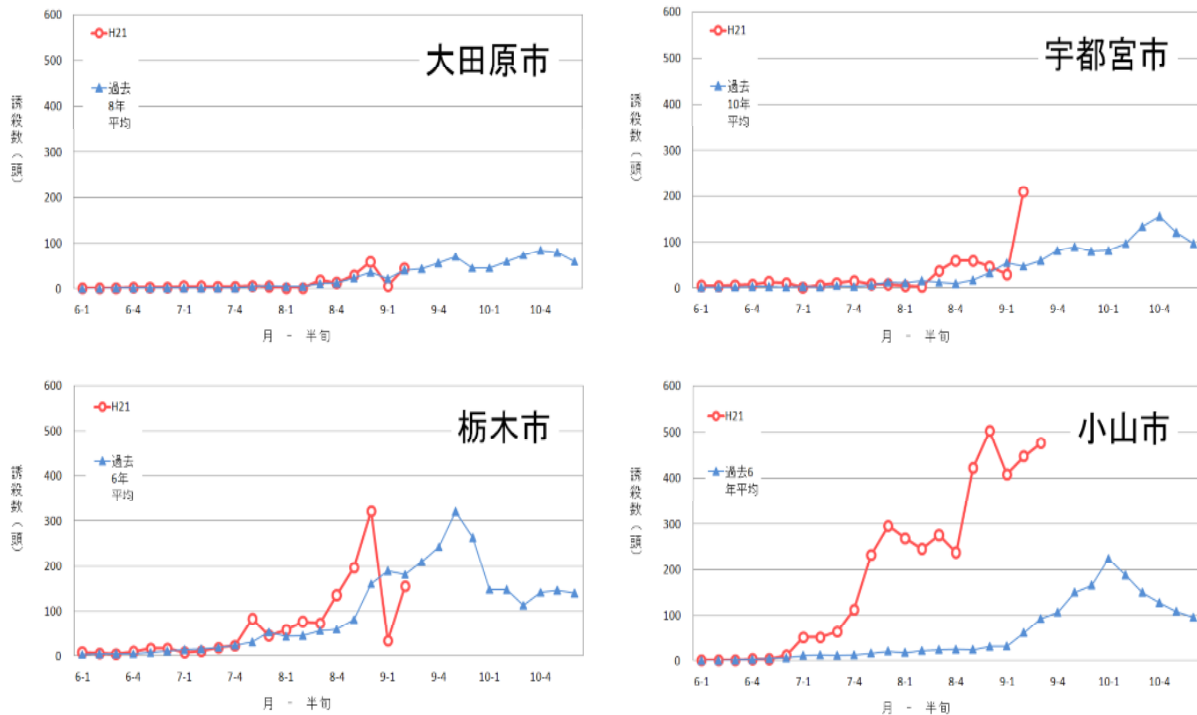


図 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺消長

防除対策

- ・ ほ場をよく観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫は寄生葉とともに摘み取り、土中に埋める。
- ・ 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を張って侵入を防ぐ。周囲にハスモンヨトウが多発したほ場がある場合、飛来が多くなるので必ず侵入防止対策をとる。
- ・ 雑草にも生息しているため、ほ場周辺の除草を行う。
- ・ 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するため、薬剤防除を行う場合には、若齢幼虫が集団でいるうちに散布する。

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012